教職科目 B，国語科教育法Ⅲ

模擬授業を通しての授業実践力育成

国語教育講座・氏名　三浦和尚

１．授業の概要

この授業は、国語科授業の構想と展開について、実践的な知見や技術を身につけるとともに、その背景にある理論について理解していくものである。目的としては、国語科授業実践の構想過程を理解するとともに、授業実践力について理解を深め、授業実践の基礎的能力を育成することがあげられる。また、到達目標は、国語科授業構想の手順を理解し、学習指導案を作成するとともに、実際の授業展開能力の基礎を身につけることができたかという点にある。

この授業の位置づけとしては、国語科教育法Ⅰにおいて国語科教育の概論があり、国語科教育法Ⅱにおいて特に文学的文章の教材研究が行われたことを受けて、実際的な授業実践能力を養うことになっている。

その授業内容は、おおよそ次のとおりである。

① ガイダンス
　模擬授業の学習材配布
② 指導案の書き方(「物語を楽しく書こう」指導案配布、説明)
③ 授業ビデオ視聴　「物語を楽しく書こう」
④ 指導案の検討(プリント資料)　「学習指導案の検討」に基づいて、指導案の自己評価
⑤ 「国語科授業の振り返り」レポートについてコメント
　○「よい授業」成立の条件
　○楽しい授業の成立
⑥ 模擬授業①古文　「仁和寺の法師」
⑦ 授業協議
　古典学習の意義
⑧ 模擬授業②漢文　「黄鶴楼にて」
⑨ 授業協議
　古典学習のあり方
　Ⅰ　「古典」の範囲
　Ⅱ　古典学習の意義
　Ⅲ　古典学習の方法
　Ⅳ　古典学習の留意点
⑩ 模擬授業③小説「形」
⑪ 授業協議
　文学的文章の学習指導のあり方
　Ⅰ　文学の学習指導の意義
　Ⅱ「読む力」の育成
　Ⅲ「読む」という行為
⑫ 模擬授業④説明文「あたりまえなことにありがとう」(池田晶子)
⑬ 授業協議
　説明的文章の学習指導のあり方
　Ⅰ　説明的文章のバリエーション
　Ⅱ説明的文章指導の意義
　Ⅲ説明的文章指導の方法
　Ⅳ説明的文章指導の留意点
⑭ 国語科学習指導のあり方
　―授業実践のためのいくつかのメッセージ―
⑮ 教育実習のために
　「国語科スタンダード」を資料として

この授業を通して、国語科教材研究の成果をどのように学習指導に活かすのか、指導の展開はどうあるべきか、指導案に必要な要素はどのようなものかといった点について理解を深めると同時に、それを通して、国語学力とは何かといった点の考察を進めることができたと考えている。

２．授業評価の方法

面談法と記述を中心としたアンケート法によった。全受講者数は 32 名である。

３．結果の概略と感想

国語科教育法Ⅰにおける概論、国語科教育法Ⅱ煮おける国語科教材研究を受け、この授業では実際の授業を念頭に、模擬授業を通して学習指導の構想の筋道(教材分析、学習者分析、指導法の工夫)を身につけさせようとした。その点はある程度充足できているのではないかと思われる。

しかしながら、それぞれの学生の指導案を細かに見ることまではできておらず、指導の不足は否めない。指導案の学生の相互評価の形をとったことは有効で、さまざまな授業の構想がありうるこ

とを学生たちは目の当たりにしたはずである。

模擬授業の後、若干の質問等を行い、次の時間に本格的な協議と、理念・理論としてのその教材の指導のあり方を講義したが、言うまでもなく、例えば小説の指導のあり方が１時間で語れるはずはなく、理論的な押さえができているとはいいがたい。また、教材の分析そのものの不足による指導の不十分さを言おうとすれば、教材分析そのものに言及せざるを得ないが、それも時間的制約の中で言及することができなかった。結果として、指導の「方法」に重点が置かれ、そのこと自体が悪いわけではないが、指導方法としての全体像は明確にはなっていない。

以下に、いくつかの学生のアンケートによる評価を挙げる。

A　模擬授業では、授業を分析するという視点に立って授業に参加することができた。自分の頭の中だけでは知ることのできない、授業を行う上での注意点や授業を構成するポイントに気が付くことができた。教師はただ文章を読み解いていく方法を考えるのではなく、生徒に対する発問の内容や板書のまとめ方や副教材の扱い方など細部にまで気を配り、授業を作り上げなくてはならないのである。また、授業で行ったように、自分自身でしっかり授業の内容を振り返り、次回に生かしていかなくてはならない。本講義を通して、実践的な視点を意識することができた。自分の中で立ち上がった課題を考察しながら、教育実習につなげていきたい。

B　授業の中では、四回の模擬授業から多くの学びがあったと感じている。私はすべて生徒側で授業を受ける立場ではあったが、３回生の時の附属小学校での教育実習や、今年の５月から２週間おこなった高校教育実習の自分を思い出しながら、教師・生徒双方の立場から授業を見ることができ、自分の授業を振り返ることもできた。発問の言葉選びの難しさや板書の方法、教師の話し方などの授業の方法や、先生の講話であった説明的文章・文学的文章・古典の学習指導やその意義、音読についての考えなど、様々な観点から学ぶことができた。この授業を３回生の教育実習の前に受けることができていればよかったと悔やまれる。

４．今後の課題

前述のアンケートのＡの記述は、具体的な模擬授業の中から、授業を構想する際にどのくらい細やかな配慮が必要か、そしてそれが、教師の立場からではなく、生徒の立場から行われる必要があることなどに気付いている。教育実習禅の学びとして、意味のある認識であるといえよう。

Ｂの記述は、カリキュラムの関係で４回生で受講した学生の記述である。模擬授業のみならず、模擬授業を受けての協議や講義から深く学んでいることがうかがえる。本人は教育実習の前に受講できていたらと言っているが、教育実習を終えていたからこそ、受講の内容が具体的・実践的に理解できたという側面は否定できないであろう。

３回生の受講でこのような認識にたどり着けるようにできないかと考えるが、そう簡単なことでもないように思われる。

仔細に反省すれば、模擬授業のあとの協議が学生主体になりきっていない、模擬授業の教材そのものが適切か、などの反省点はある。ただ何よりの反省点は、理論と実践の往還が十分ではなかったことであろう。時間不足をいいわけにしてはいけないが、具体的な模擬授業を通して、指導の理念まではなかなかまとめられなかった。

但し、私自身は、学生の反応を見ながら授業内容を変えるという、授業本来の姿に近い方法をとったつもりである。それゆえに、多少ギクシャクしたところもないではないが、学生の反応を無視してシラバスにしがみつくような授業だけは避けたいと思う。

５．授業時間外学習の促進

①　時間外の課題

いわゆる「宿題」として、「国語科授業の振り返り」のレポート、指導案の作成、指導案の吟味等を課した。特に指導案の作成は、相当な時間を必要としたはずである。また、模擬授業のための指導案の作り直しは、グループで行わせたため、数時間ではすんでいないと思われる。

②　最近のお勧めの本

お勧めの本を適宜紹介し、読書を促した。

［例］山口仲美『日本語の古典』（岩波新書）
渥見秀夫『こどもの目大人の目』（晴耕雨読）
宮川健郎『物語もっと深読み教室』（岩波ジュニア新書）

③　担当教員による授業の観察

授業時間外に、担当教員(三浦)による公開研究授業の観察を促した。授業は、附属高等学校で、二年生を対象に行われた「レモン哀歌」(高村光太郎)である。高校教員を中心に７０名ばかりの参加者があり、授業についての研究協議も行われ、そこにも参加することで、授業のあり方、研究協議のあり方等、実際的な学びができたと思われる。

これは、これまで行ってきた松山商業高等学校における授業観察の代替措置という側面もある。